



外観。サインがついている奥の建物は1期棟



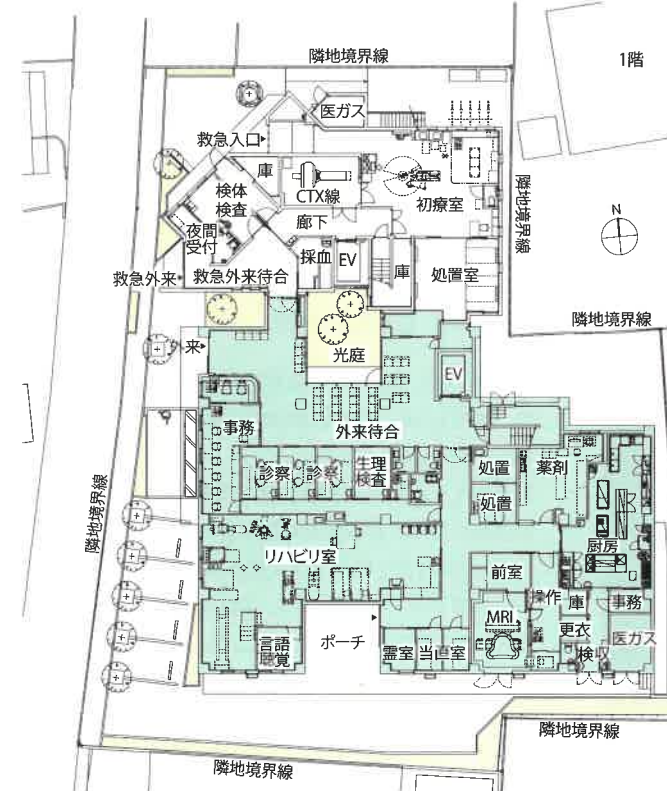
上 | 1期棟の病室 (4床室) 下 | 2階スタッフステーション

### 機能性+ほっとするデザイン

## 大高病院 | 設計・監理：健康設計

二次救急医療機関として入院が必要な患者の救急搬送を受け入れるだけでなく、そこまで重症ではない病气やけがで自ら歩いて来院する患者のアーjent・ケアも24時間365日対応している救急中心のユニークな病院である。救急車から初療室・CT・HCU(高度治療室)への動線、SS(スタッフステーション)から患者を見渡せる病床の配置といったプランニングにかかわるところから、空調・照明配置・コンセントの位置など設備計画、清掃しやすい内装材の選定といったところまで、機能的に設計を行った。同時に手づくり感があり、ほっとできるデザインとなるように心掛けた。外壁を真っ白にしてしまうのではなく、一部をコンクリート打ち放しにし、同じ基調となるようにインテリアにも壁や柱に打ち放し仕上げを取り入れている。

プランニングでは、光庭を環境装置として真ん中に配置した。メディカルコンソール(電気設備、情報設備、医療ガス設備などをユニットに一体化したもの)を工場製品ではなく、家具として製作した。丸い間接照明を要所に配置し、壁・天井の色は空間のバランスを考慮して配色している。(井上康)



平面図 S=1/500

所在地 東京都足立区島根 3-17-8  
 建築主 医療法人社団 忠医会  
 用途 病院  
 定員 82床  
 設計担当 建築：井上康  
 構造：構造計画プラス・ワン 金田勝徳、小島大輔(元所員)  
 設備：アウス企画設計事務所 柳澤マサル、忠田 達  
 施工 建築：三浦工務店 渡邊久紀  
 電気：雅電設 河野文彦  
 空調・衛生：ダイダン 河口健之(元社員)  
 構造・規模 RC造 地上3階  
 敷地面積 1,437.15㎡  
 延床面積 2,539.38㎡  
 竣工 2017年4月(1期建物は2013年8月)



光庭。1階は外来待合、2・3階は病棟食堂



リハビリ室

### ●建築主のコメント

当院は幹線道路から奥まった低層の住宅街にある。初めて来院された方にすぐ気付いてもらえるよう、白を基調として存在感のある外観をお願いした。また、外来の内装は若いファミリーにも好まれるようスタイリッシュに、病棟は高齢者が落ち着けるような暖かみのある空間を希望した。

私にとっては病院全体が道具でもある。無駄なスペースが少なく、移動や設備の使用が効率的に行える病院となり、とても満足している。(理事長・院長 大高祐一)